

農の営みを
ささえる

信濃の疏水
地域の想いを映す
コバルトブルー

「笹原ため池」



緑の中に佇む「笹原ため池」

改修された「笹原ため池」

笹原ため池は、八ヶ岳西麓、茅野市東部の笹原集落東端に位置し、ため池百選に選定された御射鹿池みしゃかいかいの下流に造られた農業用ため池で、40haの水田を潤しています。

標高1100mを越すこの地域では、八ヶ岳から流れる酸性かつ冷たい水を農業用水として利用せざるを得ないため、過去には、たびたび冷害に見舞われるなど、収量が安定しませんでした。

しかし、昭和8年に完成した御射鹿池により、湧水と混ぜて酸性水を希釈するとともに、水を一旦溜めて温めることで、米の収量が飛躍的に増えました。更に、昭和20年後半の大凶作をきっかけに、その下流に笹原ため池が築造されたことで、酸性水の希釈と水を温める効果が向上し、収量が高まりました。

池底に酸性を好むチャツボミゴケが自生することで、湖面をコバルトブルーに彩っており、この美しい景観は「茅野市ふるさと景観百選」にも認定され、多くの人々を惹きつけています。

近年、堤体からの漏水が見られるなど施設の老朽化が進んだため、平成29年度に堤体の改修工事が行われました。

新しい姿に生まれ変わった笹原ため池ですが、昔も今も変わらぬコバルトブルーの水面からは、築造に携わった人たちの想いが偲ばれます。地域に愛されるこのため池は、茅野市湖東笹原土地改良区により次代に着実に引き継がれ、季節毎に美しい景色を映し出してくれることでしょう。

(諏訪地域振興局農地整備課 小林 照男)

- 施設の管理者 茅野市湖東笹原土地改良区
- 茅野市ふるさと景観百選